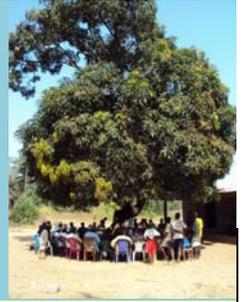


プロジェクトニュース



シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト

コラム満載号 —2011年6月 (Vol.18)—

はじめに

1. 近藤専門家から離任の挨拶 —応援しています！ シエラレオネ—

2. 宿谷専門家から離任の挨拶 —愛すべきシエラレオネの人々—

3. 活動現場の実況中継

3.1 県議会のキーパーソンの活躍

3.2 県・村落開発計画：夜討ち朝駆けとはいきませんが

3.3 Excel 研修 ポートロコ県編

4. 活動進捗報告

4.1 県議会のキャパシティアセスメント

4.2 県開発モデル構築：フィーダー道路パイロットプロジェクト

4.3 研修計画

4.4 村落開発モデル構築：モデルワードプロジェクト準備

5. 大好評のコラム

5.1 シエラのチカラ：開会のお祈り

5.2 シエラのチカラ：カンビア県観光案内Ⅱ 夢は一獲千金！？

5.3 シエラのチカラ：選挙前のハプニング

5.4 シエラのチカラ：アフリカの尾道 首都フリータウン

5.5 ごっつあんです！シエラレオネ：やはり、シーフードが癒してくれる



シエラレオネ



プロジェクト対象県

*プロジェクトHPにもアクセスください：<http://www.jica.go.jp/project/sierraleone/0901171/index.html>

はじめに：

シエラレオネは6月になり、本格的な雨期にはいりました。ほぼ毎日、集中的に雨が降る日が続いています。一方、地方では農繁期に入っています。

これから本プロジェクトでは、シエラレオネ全国に発信する予定である、地方行政を通じた村落開発及び広域を対象とする県開発事業モデルを構築する段階に入ります。県議会と住民の代表グループが協働して、地元の開発に貢献した成功事例、また、問題解決の事例をまとめ、全国に普及していくものです。い

わば、「それぞれが行動を起こすと、これだけのことができる」ことを整理して、地方自治地域開発省が全国に伝えていくお手伝いをしていくことになります。

シエラレオネの県議会・地方自治地域開発省をはじめとする関係者の多くは、非常に素朴で純粋な方が多い、というのが専門家一同の印象です。「彼らが起こす行動を支援する」という技術協力の方針の下で、非常に仕事がしやすい環境であるといえます。

現地のパートナーがなかなか行動を起こさないこともよくあります。もちろん、なかなか会えない職員がいるとか、働きかけてもなかなか動かない、こともあります。でもこれらの課題を包み込むほどの魅力がシエラレオネの人々にあります。

本プロジェクトの専門家は、日々の業務で県議会や本省の職員、県議会議員、ワード委員会のメンバー、業者など様々な関係者とやりとりしています。業務だけではなく、日々の生活を通じて、現地の食事を楽しみ、現地の言語に慣れ親しみ、シエラレオネの文化に触れています。現地の人々からすれば一瞬ではありますが、継続して駐在することで見えてくることは多々あります。それが、シエラレオネの「魅力」だと思います。

(平林リーダー)

ニュース1：離任にあたり 一応援しています！ シエラレオネー 近藤専門家

これほど純粋で、仕事熱心で、自分の国を愛している人々が多い国を、シエラレオネ以外であまり見た事がありません。カンビア県を出発する前夜、カウンターパートとプロジェクトスタッフが私達の宿舎を訪ねて来てくれたのですが、そこでも彼等はシエラレオネを自画自賛していました。「シエラレオネの料理はおいしい（多くの食材はギニアより来ているが）。」「シエラレオネの人々はよく働く（隣国では朝より酒を飲んでいる人々がいる事と比較し）。」「シエラレオネの人々は美しい。」等と延々と語っていました。彼等の話だけ聞いているとパラダイスを想い浮かべてしまいそうです。



カンビア県議会にて。

10年程前まで、約10年間紛争をしており、その後復興により多数の支援も入り、徐々に成長してきた国ですが、今は「明るい未来に向かって前進しよう」と自覚している国民が多いように思います。もちろん詳しく話を聞いていると、戦争の頃は隣国ギニアへ難民として避難していたとか、兵士が迫ってきたので目の前の川を泳いで逃げたとか、実は親は殺されたとか、悲しい話は出てきます。しかし、日常生活では出来るだけ笑顔で過ごそうとしている人が多いように思います。

紛争後、海外より多大な復興支援がなされましたが、それに依存し続ける事なく、「自分達の国や地域は自分達で良くしていきたい」という気持ちを持っている人も多いように思います。ですから、シエラの人々と一緒に仕事をしています、とても面白かったです。

本プロジェクトは今まで多くの方々が丁寧に関わってきており、カウンターパートもスタッフもプロジェクトの目的をよく理解し、私自身が関わった時点で業務のし易い環境が整っていました。多くの方々にとても感謝しております。



プロジェクトサイトにて。左が近藤専門家。

シエラの人々のこのような心意気が変わることがなければ、これからシエラレオネはどんどん成長していくでしょう。本当にパラダイスになる日も来るかもしれません。このプロジェクトを筆頭に、今後もシエラレオネの行方を追って見守っていきたいと思っています。応援しています、シエラレオネ！

(近藤専門家：キャパシティアセスメント・コミュニティ開発担当)

ニュース2：離任にあたり ー愛すべき シエラレオネの人々ー 宿谷専門家

道路計画、調達管理の専門家として2010年9月に赴任して、早10ヶ月が経ち、あっという間に離任となりました。プロジェクトの途中からの参加でしたが、それまでの専門家の方々のご尽力により、比較的スムーズにプロジェクトに入ることができました。ただ、当初は当然の事ながら、道路局の対応の悪さ、県議会の限られた人員、また首都の交通網の悪さ（渋滞の多さ）に悪戦苦闘していました。

慣れるにつれて、実は真面目で実直、また能力の高いシエラレオネ人にびっくりしました。県議会行政のトップ（主席行政官）には、当然アポなしで部屋に踏み込み議論したり、現地調査に同行してもらったり、また、途中から関係が良くなった道路局の農道部局長と談笑したりと普段では考えられない経験をさせていただきました。さらには、大臣、副大臣、次官また、県議会の議長にも活動報告を真摯に聞いてもらいました。シエラレオネだから許されたのかと思います。



現場にて活躍する宿谷専門家（右）。

そして、エンジニア達、皆真面目で愛嬌があり、そしてどこの国でもそうですが女性にはやさしく、、、特に県議会のエンジニア2人の今後の活躍が楽しみです。また、女性のエンジニアもいるとのこと、この国の将来は有望です。

今回の離任にあたり、彼らの活躍を見続けられないのが残念ですが、またの機会に報告を受けるのも楽しみにしていきたいと思えます。

(宿谷専門家：調達制度・道路計画担当)

ニュース 3. 活動現場の実況中継

実況中継 1. 県議会のキーパーソン、副主席行政官の活躍：県開発・フィーダー道路工事

県議会の行政のトップ、主席行政官を補佐するのが副主席行政官です。忙しい主席行政官が不在の時には、彼の代わりとなって県議会を運営します。部下の言い分を聞く、活動を報告して承認を得る等、組織の潤滑油として重要なポジションですが、表にほとんどでず、影で県議会を支えています。

今回、カンビア県のフィーダー道路改修工事の完工検査・竣工式に大活躍した副主席行政官についてレポートします。

フィーダー道路改修工事 Lot1、Lot 2 の完工検査は主席行政官が同行することになっていました。当日、主席行政官が音信不通（携帯電話の電池が切れたまま、突然開催された首都の会議に参加していました。）、前週も急な予定変更で施工業者を待たせており、延期することはできません。急遽、議長経由で副主席行政官のフォファナ氏に同行を依頼しました。最初は訳がわからず、渋っていた彼ですが、事態の緊急性を察知し、最後は心良く引き受けてくれました。



カルバートの状況を確認する副主席行政官
(中央)

現場に行くと、エンジニア顔負けにカルバートの仕上がりを調べたり、舗装の状況を確認したりと積極的です。施工監理者からの施工業者の指摘に対しても「その指摘に対してこれからどうすべきか？」と行政の長らしい意見です。彼のおかげで無事検査が終了しました。

Lot 1、Lot 2 の竣工式では、副主席行政官が中心になって、出席者の調整、担当議員への指示等、準備に余念がありませんでした。当日も出席した大臣、議長等の意見を聞きつつ、汗をかきつつ、出席者に配慮しながら、つつがなく終了しました。予定時間は相当オーバーしましたが、それはしゃべりすぎた副議長のせいでしょう。

フォファナ氏お疲れさまでした。今後とも、カンビア県のフィーダー道路改修プロジェクトをお願いします。

フィーダー道路の改修工事は、工期中盤に差し掛かってきました。カンビア県の Lot 3 については、施工監理者からの再三の警告にもかかわらず、工程の遅れや不適切な施工が目立ってきました。



副主席行政官の司会で竣工式
が始まる (中央)

原因は、業者のエンジニアの不在が多く、適切な監督ができていないことです。これについて、まず、県議会と話し、業者には主席行政官とプロジェクトの連名で警告レターを出すことにしました。また、忙しい主席行政官自ら、現場でのミーティングに出席し、指導することになりました。

工事の施工監理は、普段は県議会のエンジニアによって実施されますが、技術者以外の職員の現場訪問も重要です。特に、主席行政官は県議会職員のトップであり、業者への影響はかなり大きいものです。実は、彼は工事の初めの頃にも自ら現場を訪問し、作業状態の把握に努めていました。このような長の行動は、他の職員や住民にもプロジェクトへの積極的な参加を促す意味でいい影響を与えます。

今回は、実際には主席行政官の予定が合わず、現場指導は実現していませんが、レターや施工監理者の指導の効力で、業者は重機を民間会社から借りる等の方策を取るよう改善の傾向が見られます。今後ともさらなる改善を目指し、県議会からの施工監理を強化します。

(宿谷専門家：調達制度・道路計画担当)

実況中継 2. 夜討ち朝駆けとはいきませんが：県・村落開発計画

現地に派遣される前から、専門家間でやり取りされているメールの中で「カウンターパートがつかまりません！」という悲鳴を読んでいたが、まさか自分も叫びたくなるとは！

私のメインのカウンターパートは県開発計画担当官なのですが、地方・村落開発計画立案・実施の要のスタッフということで、国連や世銀が首都や地方で行う研修に引っ張りだこです。彼らにとっても、研修に参加することで国際機関から割の良い日当が与えられるので、研修参加へのモチベーションが非常に高いのです。

「国際機関による研修が、研修で学んだことを活かす機会を奪う」という奇妙な現象が起きているのです。一方、本プロジェクトとの仕事はモデルワード・プロジェクト実施プランの見直し訂正などコツコツと泥臭い仕事が多く、しかも日当などありません。おかげで、赴任直後は1週間から2週間ほどカウンターパートと打ち合わせができないまま時間が過ぎてしまい、県議会副主席行政官などから聞き取りに時間をかけていました。

じっと、彼らカウンターパートの部屋に張り付いていればいいのですが、カンビア県とポートロコ県との間には最近アスファルト舗装された道路があるとはいえ、車で40分強かかります。ですから、明日の予定を電話で聞き出しておいて朝一番で会いに行ったり、何度も部屋に顔を出したりという手間暇に時間がかかります。日々のコミュニケーションを増やせば後々の仕事が楽になるはずなのですが、自分の仕事時間も減ってきます。

そこで、業務時間終了後に行政関係者が立ち寄る飲み屋を帰り際に必ず覗くことを日課にしています。彼らが飲んでいればビール一本分付き合う「飲ミネーション」による情報収集です。飲



酒場の店内。



お店の外観。人目をはばかるためか、塀で囲まれています。

めばしゃべる人、黙りこくる人と千差万別ですが、**職場では見えない人間関係や人間性が見えてきます。**本当ならば、夜にでもカウンターパートの家に押しかけて業務の話をしたいのですが、土砂降りの雨の中で真っ暗な夜道を出掛けて被るかもしれない事故のリスクがあります。さらに、プライバシーが少ないかもしれない大家族の家庭を訪問することへのためらいもあります。2か月の現地業務では、夜討ち朝駆けの家庭訪問をできるような人間関係を築き上げるのは至難の業ですが、残り1か月半にどこまで近づけるか、楽しみです。

(佐藤専門家：県・村落開発計画担当)

実況中継 3. Excel研修 –ポートルココ県編–：研修計画

本年4月にカンビア県で実施した Excel 研修を、今回はポートルココ県で実施しました。前回同様に財務・経済開発省配属の鈴木専門家が講師でしたが、今回は私自身も講師として Excel の基本操作法の講義を行いました。また今回画期的であったのは、前回の同研修で受講生だった本プロジェクト雇用スタッフのハジャさんが研修アシスタントとして、教わる側から教える側へとポジションが変わったことです。

今回の研修に先立ち、鈴木専門家と私とで Excel Statistics という教科書を出版し、私がこの教科書で Excel の基本操作についての数章を担当したことが、今回の講師としての参加きっかけとなりました。

カンビア県での研修では参加者のレベルに大きな差があったため、ポートルココ県では「コンピュータ初心者はお断り」とし、Windows の基本操作が出来る人のみを対象として開講いたしました。研修終了数日後、受講者の数人へ Excel を利用した表作成とその表を利用したデータの並べ替えとデータ処理をしてもらったのですが、嬉しいことに、Sum 関数の利用や並べ替え機能の利用など、今回の研修で習得した機能を活用して作業をしておりました。

受講者の特定を行い、かつ鈴木専門家の講義前に Excel の基本操作についての講義を行ったことから、研修全体がスムーズに実施され、受講者全員の研修内容の理解度も高くなったものと思われます。

帰国までに、Windows の基本操作についてもトレーニングを実施しなければならないと計画していますが、恐らく私自身でトレーニングを実施している時間はないでしょう。そのため、後に残るよう、Windows 基本操作程度であれば本プロジェクト内部、県議会内部の人材で研修実施ができるよう、残りの期間で人財育成を行うつもりです。

(吉野専門家：業務調整/研修計画/村落開発担当)



前回受講生だったハジャさん（右の女性）。
今回アシスタントとして活躍しました。



今回は講師として参加した吉野専門家（右）

ニュース4：プロジェクト活動進捗報告

2011年度実施予定の主な事業		
主な活動	予定	進捗状況
県・村落開発ハンドブックの草案	2011年5月までに目次案を作成。 2011年6月からハンドブックの草案作業を行う。	ゼロドラフトの目次案と内容の草案を開始。
モデルワードプロジェクト	カンビア県4件、ポートロコ県2件(社会・経済基盤整備)のモデルワードプロジェクト支援を通じ、県・村落開発モデルのうち、特に村落開発モデルの構築を行う。	モデルワードプロジェクト詳細実施要領のとりまとめ作業中。
パイロットプロジェクト： フィーダー道路・カルバート改修工事	フィーダー道路改修計画を支援し、県議会の実施体制と機能把握、課題を抽出し来年度開始するモデル事業のモデル案を作成する。 主な工事：フェーズ1第1ターム(2011年5月末まで) カンビア県：フィーダー道路計17Km, カルバート32箇所 ポートロコ県：フィーダー道路12.7Km, カルバート7箇所 主な工事：フェーズ1第2ターム(2012年5月末まで)	課題の抽出とまとめ。次タームの道路計画の準備を進める。 工事進捗：カンビア県 Lot1 と Lot2 工事完了。カンビア県 Lot3 及びポートロコ県の工事実施中。
研修事業	県議会職員、ワード委員会メンバーへの国内研修、第三国研修。パイロットプロジェクトのインパクト調査実施。	計画策定中。

4.1 県議会のキャパシティアセスメント

これまではワード委員会のキャパシティアセスメントについて主に紹介してきましたが、本プロジェクトでは、県議会のキャパシティアセスメントも実施していますので、今回はこちらをご紹介します。

本省である地方自治地域開発省の下、シエラレオネには全部で19の地方議会があります。各地方議会の有する人材は異なり、また彼等が地域開発のために実施している活動内容は異なります。この違いを把握し、地域開発に有効な手立てを施すための助言をしていく事が本省には求められております。この一環として、2011年5月31日～6月2日にかけて、カンビア県議会とポートロコ県議会を対象に、本省によるキャパシティアセスメントを実施しました。



ポートロコ県議会でのキャパシティアセスメント

本省は、各県議会のキャパシティアセスメントを毎年実施していると、口頭では言うのですが、その結果がどこを探しても、誰にあたっても、なかなか出てきません。それでは、本年度実施分については、計画段階より体系立てて実施していきましようという事で、調査票の作成段階から本省職員に助言を行いま

した。特に、本省の地方自治局長および次官秘書に中心になってもらい、評価項目の見直しや修正を進めていたのですが、調査票の確定だけでも約2カ月要しました。

本省のあるべき姿として、まずは全国の地方議会の現状を把握する必要がある事を、言動共に理解してもらうには相当の時間を要します。今の時点では、「本省として、地方議会の活動状況を把握し、提言を示していくことが重要である。今回のカンビア県議会とポートロコ県議会のキャパシティアセスメントの実施方法で他の地方議会でも実施していきたい。」と本省職員は言っています。



カンビア県議会でのキャパシティアセスメント

話だけではなく、行動も伴われるのが望ましいのですが、現時点では彼らの行動は確約できていません。今後は、本省職員が今回のキャパシティアセスメントの意義や手法を理解していく事により、全国の各県議会のキャパシティアセスメントの必要性を彼等が切に感じ、彼等の行動も伴われていくようになる事を期待しています。

(近藤専門家：キャパシティアセスメント・コミュニティ開発担当)

4.2 県開発モデル構築・フィーダー道路パイロットプロジェクト：希望への道ができたか？

交通網の脆弱な農村地域内を結ぶフィーダー道路の改修は、地域発展のために重要で国の開発計画でも上位を占めます。本フィーダー道路改修プロジェクトは、県開発計画モデルに組み込まれる広域の視点が重要なプロジェクトとして実施しています。

さて、パイロットプロジェクトとして実施しているフィーダー道路改修工事ですが、4サイト中、カンビア県の2つのサイトで工事が終了、ポートロコ県のサイトはほぼ終了しました。カンビア県の Lot 1、Lot 2 では本省から大臣が

出席するなど、主要な要人が出席する中、竣工式が開催され、無事業者から住民に引き渡しされました。これから6カ月間は瑕疵保証期間で、なにか不備があった場合、施工業者の責任となります。



カンビア県Lot 2の竣工式：右から副議長、議長、大臣、平林リーダーによるテープカット。大勢の村人が集まる

さて、カンビア県の Lot 3 は、業者のマネジメント能力の低さから、重機が調達できず、6月上旬時点で、工事が進捗しなくなりました。カンビア県の主任行政官等からの叱咤激励も聞かず、もはや施工業者自身も立ち往生という状態でした。ここで、シエラレオネ道路局ポートロコ県のエンジニアが仲介し、プライベートの重機業者から何とか重機を借りることができました。1カ月遅れですが、完工に向けてラストスパートの状態です。

この工事を通じた教訓の一つは、施工業者は契約書、仕様書を熟読しておらず、また、しばしば施工業者の能力に合わない仕様があるために、理解してもらうための指導に苦勞しました。今後、改訂する必要があるでしょう。また、地元出身の業者が受注すると熱心に工事するようです。地元の親戚の目が光っているからか、やはり愛着があるからでしょうか。工事は、住民のためでもあることが良く分かります。

さて、今回は、県開発計画モデルの一部に盛り込むべき、次タームにおける改修工事のための道路計画を立て始めました。まず、ステアリングコミッティにて、県議会から関係者に概要を説明しました。次に、前回の会議結果を基に、道路局のエンジニアが基準に沿って、フィーダー道路リスト（案）をつくり、今回の会議では、各セクターや県議会の主要人物により、改修道路候補を選定しました。各チーフダムから2路線ずつ選ばれ、次にこの道路を実際に調査し、点数付けし、最終的に点数の高い道路を改修することにしました。ここには政治的判断は混じらないように配慮しています。



道路選定会議の風景：県関係者が熱心に話し合う（カンビア県にて）。

作業を通じ、懸念していた道路部局所属の議員からも、「この方法は透明性を保てて良い」との意見が得られました。すべての作業は、県議会、道路局主導で実施しており、道路計画も良い方向に進むと感じていますが、県議会の実行力、それが今後の課題です。

（宿谷専門家：調達制度・道路計画担当）

4.3 研修計画：研修計画の仕上げ方支援 —カンビア県編—

離任まであと数週間となりました。遅々として進まなかった研修計画ですが、離任を目の前に控えた6月頭頃からやっとカウンターパートである人事官も重かった腰を上げ、順調に計画作成が進み始めました。現在は完全に人事官主導で計画策定を行っており、県議会内のスタッフへの聞き取り調査も終了し、各スタッフの期待する研修とそのアウトプットが具体的なものになってきました。



カンビア県人事官と研修計画を思案中。

上記の作業は、全て日本人専門家で行ってしまえばたやすい作業なのですが、それでは技術協力プロジェクトの意味が全くありません。結果を出すために一人で作業をしたいところをジッと耐え、カウンターパートと対話を重ね、ようやくカウンターパートのやる気と実力が開花し、技術協力の理想的な形で結果をだすことができそうな状態になっています。

今後は出来上がった計画を実行段階に移せるよう、カウンターパートと共にフリータウンへ研修実施機関訪問を行います。また並行して、LGSC（Local Government Service Commission）という地方行政スタッフの人事を司る機関の担当者をカンビアへ招き、地方での人事評価の実際を見てもらうと共に、今回県議会で作成した研修計画リストとLGSCが計画策定し保有している“あろう”研修計画リストを照らし合わせ、中央と県議会との研修ニーズの差異分析を行う予定です。

カウンターパートが自ら作成した計画が一つでも多く実行に移せるようにしっかりと計画作成をサポートし、次の研修計画専門家へつなげてゆきたいと思います。

(吉野専門家：業務調整/研修計画/村落開発担当)

4.4 村落開発モデル構築：モデルワードプロジェクト実施準備

本プロジェクトでは、以前は現場での開発の担い手としてワード委員会を窓口としていましたが、キャパシティ・アセスメントの結果によるとワード委員会は村落開発のアクターとしては得手不得手はかなりあるようです。そこで、今回のモデルワード・プロジェクトからは、ワード委員会を窓口としながらも、一階層掘り下げた村レベルで、ニーズの取り出しとモニタリング活動等を行い、より効率的・持続的な村落開発ができるようになるかどうかを検証することになりました。

さらに、県議会、各省庁の県事務所、ワード委員会、村組織、伝統組織等が縦横に重なった村落地域で、県議会がそれぞれの組織・集団の調整ができるかどうか問われます。また、「やる気」のある村民による献身的なボランティア活動を、村落開発に活かせるかどうか県議会とワード委員会の重要な任務となります。

これまで本プロジェクトは初期段階であったため、JICA 専門家がカウンターパートに対して「やってみせる」ことにより支援をしてきました。プロジェクトも1年半以上たった今は、県議会職員が自ら行動を起こすように後ろからサポートする「主体的に取組む」へ支援方針の舵をきっています。

村落開発の担い手について現在様々な関係者と協議しています。シエラレオネで活動する他の国際機関や世界的な村落開発の成功例によると、村レベルでの開発アクターを育成・活用することが有効且つ持続的な村落開発につながるようです。



村落開発についてのセミナー風景。ポートロコ県議会にて。

そこでカウンターパートらと相談した結果、モデルワード・プロジェクトでの実施に際しては、村民のニーズを汲み取る仕組みとして Village Development Committee (VDC) を組織して活用する方向で話が進んでいます。シエラレオネ政府で作成している村落開発ポリシーでも VDC の重要性を明記することになっていますので、国の方針とも一致しています。

県議会にとっては、ワード委員会や伝統的組織を通じて、VDC を組織することになります。この試みがまさに「主体的に取組む」ことになります。「国際機関や NGO でもなく、地方行政機関である県議会が VDC の設立を促進させる」のは、興味深い取り組みになると思います。おそらく、村レベルからワード委員会や各省庁の県事務局、政治家や工事請負業者とのコミュニケーションを促進し、書類を効率的に管理することが必要になるかもしれません。

本モデルワード・プロジェクトを通じて、できる事/できない事、必要な作業/不必要な作業を取捨選択することにより、シエラレオネの地方行政機関でも可能な村落開発のエッセンスを取り出すことになり、村落開発のモデルをより具現化することに近づきます。もしかすると、モデルワード・プロジェクトで試そうとしていることは、まだ「全部やってみせて」いないことを「主体的に取り組む」ことなのかもしれません。がんばれ、カンビア県議会とポートルココ県議会！

(佐藤専門家：県・村落開発計画担当)

コラム1：シエラのチカラ -開会のお祈り- by 近藤 専門家

シエラレオネでは、ワークショップや会議等の開始時に、まずお祈りをします。イスラム教徒もキリスト教徒もいる中で、村でよく取られるのはサイレント・プレイ（黙ったままお祈りすること）です。

「皆でサイレント・プレイをしましょう。」との合図の下、それぞれの宗派に従ったお祈りをしています。場合によっては、村の議長や長老が、イスラム教とキリスト教の両方の祈りをした後、同じく両方の宗派に従った「アルハンドリラ・アーメン」と閉めて、開始される場合もあります。

5月26日のフォーラムでは、マスンバラ・チーフダムのワード125の議員による、毎朝モスクより流れてくるコーランかと思われるほど滑らかなアラビア語でのイスラム教のお祈りをした後、本省職員による歌うようなキリスト教でのお祈りがなされました。



フォーラムでのお祈り。



引渡し式でのお祈り。

コラム2：シエラのチカラ -カンビア県観光案内II 夢は一獲千金！？- by 宿谷 専門家

とある土曜日の夕暮れ。カンビア県の工事現場 Lot 3 に行こうとした時、ドライバーのジボ君が突然言い出しました。「ちょっと Lot 3 まで近道していいかな？道が悪いんだけど、面白いものがある。」「何が有るんだい？」「着いてか



作業の合間にハイポーズ。パラマウントチーフのチームです。



洗濯しているようですが、泥を洗っています。

らのお楽しみ!!」、ということでジボ君の誘いに乗って行って行ってみました。横道に逸れること 30 分、Lot 3 まで 15 分のところで、「着いたぞ！これが金山だよ」。

見ると、大勢の労働者たちが、土を掘り起こし、カゴに入れて、一心不乱に泥を洗っています。総勢 50 名程度。女性もかなり混じっています。どこかの鉱山会社がやっていると思いきや、全員が住民個人でやっているとのこと。話を聞くと、「パラマウントチーフの親戚も一緒になって掘っている。機械は何もない。」と、本当に人力だけの作業です。

数人で力を合わせて掘る人、カゴをふるう人と仕事分担しているチームもあれば、一人で黙々とやっている人もいます。家族で、まるで洗濯しにきているような人たちもいます。



これで約 6 ドル分の砂金だそうです。

皆、思いは一攫千金！ホントに取れるのでしょうか？後に聞いたところによると、運が良いと写真の量の砂金が取れ、仲買人に 25, 000Le (約 6 ドル) で売れるそうです。体験は無料です。是非お試しあれ！

ちなみに、各工事サイトともに地域の特産物があり、施工業者は、しばしば住民を労働者として雇用するのに苦労しました。カンビア県 Lot 1 はショウガ、Lot 2 は飛ばして、Lot 3 は砂金、ポートロコ県は木炭です。

コラム 3 : シエラのチカラ —選挙前のハプニング— by 吉野 専門家

この原稿を書いているのは 6 月 25 日 (土) です。昨日 24 日 (金) はカンビア県マグベマチーフダムのパラマウントチーフ選挙でした。同選挙は大きな混乱も小さな混乱もなく平穩に執り行われ、昨晚無事に新パラマウントチーフが決定いたしました。

選挙は NEC (National Election Committee) という機関によって行われるのですが、実は一週間前の土曜日、カンビア県議会内にある NEC 事務所で大変なことが起こっていました。

本プロジェクトのカンビア事務所は NEC 事務所のすぐ側にあります。選挙一週間前の土曜日の午前中、私と数人のプロジェクト雇用スタッフで書類整理をしていると、「ブォーン、ブォーン」とエンジンを吹かす音が聞こえてきました。するとその直後「ドッカーン」という音が。何かと思って外に出てみると、NEC の事務所に車がつっこんでいました。

選挙を一週間後に控えた同事務所にはいろいろな機密情報が保管されています。この大事な時期に、事務所の壁には大穴が。車の運転手は気が動転しており興奮状態でしたが、幸い誰も怪我人はいなかったため、人々の関心は「さて、この穴をどうしたものか？」というところに。シエラレオネのペースで考えると、大穴の修復作業にはかなり時間がかかるだろうと思われました。



NEC事務所に空いた大きな穴。

しかし、そこは一週間後に選挙を控えた NEC。事故か

ら2時間後には修復作業が始まり、同日夕方までには壁の大穴は埋められ、翌日の日曜日にはほぼ元通りの状態になっていました。緊急性を考慮した迅速な予算処置と対応。やれば出来るではないですか！

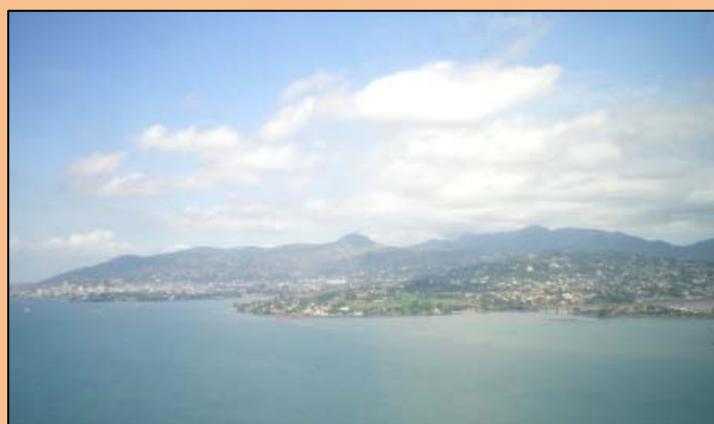
目の前に具体的な目的があるとやはり対応は早いですね。本プロジェクトが支援する県議会の県開発計画も同じように、計画に対して適切に予算措置がとられ、適切に対応が図られればよいのですが…。計画そのものの妥当性、ドナーからの予算執行時期等々、解決してゆかなければならない問題は山積みです。

しかし、目の前の小さなことからでもコツコツ積み上げてゆけば、いつかきっと国全体がよい方向に向かってゆけると思います。いつか私たちの協力が無くても、自力で逞しく地方行政を実施できるようになることを祈りつつ。

コラム4：シエラのチカラ –アフリカの尾道 フリータウン– by 荒企画役

海と山に挟まれた平地に市街地が広がるフリータウン、私にとって印象的な都市のひとつです。以前、このコラムでフリータウンのビーチをアフリカが江の島、湘南海岸と紹介されたことがありましたが、個人的にアフリカの尾道とよんでいます。

今回、残念ながら街を散策する機会はなかったのですが、2階建てのショップハウスが建ち並ぶ街並みが数多く残っていて、街の活気を肌で感じられます。



上空から見た首都フリータウン

隣国のリベリアの首都モンロヴィアは、都市軸が明確で計画都市との印象を強いのですが、解放奴隷による植民都市という似た歴史をもつのに、何故、こんなに印象が異なるのか。歴史をみると、イギリスの軍人である都市計画家であったオグルソープという人物がフリータウンの発展に寄与したとあります。イギリスとアメリカの入植方法の違いによるものなのか。街をみていると、いろいろな考えがかけめぐります。

フリータウンは交通渋滞、電力不足等、様々な問題を抱えています。現在、EUによる支援で都市開発計画が作られるとともに、道路整備や洪水対策等の様々なプロジェクトが実施されています。日本も電力分野で支援を行いました。しかし、都市の拡大にインフラ整備が追いついていないのが現状です。

フリータウンは政治・経済の中心であり、シエラレオネのさらなる発展のためには、都市機能の強化が必要不可欠です。現在の都市の雰囲気を保ちながら都市機能の強化を図るためにはどのような方法があるのか、都市形成史の比較分析とともに、今後のフリータウン



フリータウンのランドマークであるコットンツリー。

の都市開発のあり方について、チャンスがあれば腰をすえて取り組みたい、とあらためて感じた今回のシエラレオネ訪問でした。

(JICA 経済基盤開発部 都市・地域開発第二課 荒 仁)

コラム5：ごっつあんです！シエラレオネ —やはり、シーフードが癒してくれる— by ひらしゅらん

久々のひらしゅらんです。

6月に入りシエラレオネは本格的な雨季に入りました。曇り空と湿った空気でカビの季節の始まりでもあります。

こんな時、シエラレオネの宝であるきれいなビーチを思い出すだけで気分は癒されます。白い砂浜、青い海、どこまでも広がる青空、波の音が心を癒してくれます。

今回はフリータウン市内から車で1時間半ほど南に向かったところにある、サセックスビーチにあるレストランをご紹介します。

その名はフローレンスレストラン。イタリア人オーナーの名前はフランコさん。お店の中は広々としていて、窓がないオープンスペース。海風が心地いい空間です。しかも目の前はきれいなビーチ。

料理をお願いすると、お店の外にあるパラソル付きのテーブルまで運んでくれます。ビーチと一体になって料理を楽しめます。

ビーチを眺めながら食べたいのがシーフード。シーフードとくれば、やっぱり食べたいのがロブスター。このお店はいつ行っても大と中サ

イズのロブスターがあるのがうれしいです。

迷わずロブスターの炭火焼をいただきます！

おいしいのはロブスターだけではありませんよ。

パスタはやや量は少ないですが、クリームソースのシーフードスパゲティは



レストランの外はビーチ。



店内から見えるのは目の前に広がるビーチ。



やっぱりロブスター、です。



広々とした店内。

アルデンテに近いパスタのゆで加減と、ホワイトソースが絶妙のハーモニーを奏でています。カルパッチョもおつまみに最高です。

やっぱり、ビーチとシーフードが心を癒してくれます。

ひらしゅらん独断の評価：★★★★★。ビーチを見ながらの食事は、おいしさをさらにひきたてます。

(次号へ続く)

発行元：シエラレオネ 地域開発能力向上 (CDCD) プロジェクト 編集長 平林

事務所：フリータウン事務所：地方自治地域開発省内、カンビア県事務所：同県議会内、ポートルコ県事務所：同県議会内

プロジェクト協力期間：2009年11月～2014年10月（5年間）

対象地域：カンビア県（25ワード：人口約30万人）、ポートルコ県（7ワード：人口約9万人）

カウンターパート：地方自治地域開発省、カンビア県議会、ポートルコ県議会

派遣専門家：平林リーダー、吉野業務調整、宿谷調達制度/道路計画専門家、近藤キャパシティアセスメント専門家、反町キャパシティアセスメント専門家、佐藤県・村落開発専門家（2010年6月実績）